

## 障害児入所施設（福祉型）の課題整理

### 発達支援機能

#### 【課題】

- ① 子どもの健全な発達の観点からは、より家庭的な雰囲気での支援が望ましいと考えられるが、これを推進するための方策について、どう考えるか。
- ・ 施設の小規模化、地域化の推進
  - ・ 里親、ファミリーホーム、グループホームの活用・連携強化

（これまでの検討会における意見）（※事務局の責任においてとりまとめたもの。以下同じ）

- ・ 児童福祉法理念のもとに、家庭養護の原則、家庭的養護を積極的に進めることが必要。  
（北川構成員）
- ・ 小規模化、グループケアで職員と一緒にする時間が増えたり、問題行動が減った。  
（米山構成員）
- ・ 障害児入所施設にも地域で暮らせる、家庭的な暮らしができる制度があることを望む。  
（日本ファミリーホーム協議会）
- ・ なかなか愛着であるとか気持ちの部分については焦点化されていなかったというのがこれまでの対応。そういう意味では、家庭的養護とか家庭養育の視点も大切。  
（全国児童発達支援協議会）
- ・ 最初のアタッチメント形成がきちんと形成されていない。発達支援の機能の中で小規模化や家庭養育優先の原則の在り方を踏まえる必要がある。（相澤構成員）
- ・ 児童福祉法の範囲で新しく子どものグループホームの創設等もぜひ議論を希望する。  
（日本グループホーム学会）
- ・ 児童福祉法の範囲の中での障害児のグループホームの制度化をすべき。  
（日本知的障害者福祉協会）
- ・ できるだけ身近な地域で、小規模で家庭と地域との中間的な役割を担えるような機能を入所施設が持てないか。（日本グループホーム学会）
- ・ 障害児入所施設においても、地域化、あるいはケア単位の小規模化という取り組みが今後ますます必要になってくる。（全国児童養護施設協議会）

## 【課題】

② 障害児入所施設としての専門的機能の高度化について、どう考えるか。また、これを推進するための方策について、どう考えるか。

- ・ 愛着障害と知的・発達障害等の重複障害児への支援の推進
- ・ 強度行動障害児への対応力の強化
- ・ 医療的機能と福祉的機能の強化・連携促進

### （これまでの検討会における意見）

- ・ ケアニーズが高い子に対する対応が出来る発達支援機能の充実。愛着の課題や、強度行動障害の子どもなど、ケアニーズの高い子どもへの専門的対応が求められている。  
（北川構成員）
- ・ 強度行動障害児に対して、適切なかわりをしっかりと治療的にしていくことも障害児入所施設の課題。（北川構成員）
- ・ もっとコメディカルスタッフを入れていくべき。（市川構成員）
- ・ 医療と福祉の複合的な機能を持った施設が必要。（鈴木構成員）
- ・ 発達障害児の二次障害の軽減や家庭復帰の促進などを促進するためにも、福祉と医療の複合的な障害児入所施設としての人員や人材を配置することが必要。  
（全国児童青年精神科医療施設協議会）
- ・ 聴こえない子供、盲ろうの子どもたちが受け入れられる施設を増やしていくことが必要。  
（全日本ろうあ連盟）
- ・ 重複視覚障害者、視覚と他の障害を重複している障害児に視点を当てた行政施策とそれを支援する社会資源の整備が必要。  
（日本盲人会連合）
- ・ 視覚障害児の支援・療育等に対応できる障害児入所施設の整備が必要。  
（日本盲人会連合）
- ・ 障害児入所施設における視覚障害児の支援・療育の効果を整理すべき。  
（日本盲人会連合）